

NPO法人

やんちやまファミリー with



登壇者紹介

NPO法人 やんちゃまファミリーwith
理事長 田崎 由佳

一般社団法人 Smiling club 共同代表理事



活動地域

大阪府 松原市

人口：11万8千人（2021年9月末）

市内全域を対象



2007年 NPO法人 やんちゃまファミリーwith 設立

子育て支援サークルの運営から事業開始

2011年 相談支援事業開始（松原市委託事業）

2015年 やんちゃま食堂立ち上げ（松原市モデル事業）

※新型コロナウイルスの影響により、**2020年からお弁当配達**に切り替え

2016年 子育て支援センター開設（松原市委託事業）

2020年 まつばらフードパントリー



【事務局体制】

法人スタッフ 10名 ボランティア 30名

（うち、こども宅食に関わるスタッフ 8名 ボランティア 13名）

こども宅食の取組み

支援のきっかけ

まつばらフードパントリー (単発支援)

- ◎すべての家庭を対象
- ◎申込みの都度、食品・生活用品等をお届け

ママに愛情たっぷりお弁当 (期間限定)

- ◎生後2ヶ月までの赤ちゃんがいる家庭を対象
- ◎毎週火曜にお弁当+αをお届け

継続支援

愛情たっぷりお弁当配達

- ◎こども食堂利用家庭のほかパントリーやママ弁の利用者のうち継続的支援が必要な家庭を対象
- ◎毎週木曜・最終土曜にお弁当+αをお届け

支援要請

支援要請

財源：支援対象児童等見守り強化事業
※市からの要請ケースについては、月に1回ケース会議を開催し対応方針を決定

家庭と「つながる」



Point

入り口は入りやすいほうがいい！

◎「食を届ける」というきっかけ・・・パントリー、ママ弁を入口に



Point

様々なルートから周知をし、情報を届ける！

◎関係機関（学校、病院、行政など）との連携

◎SNSや公式LINEをフル活用

◎個別の声かけ



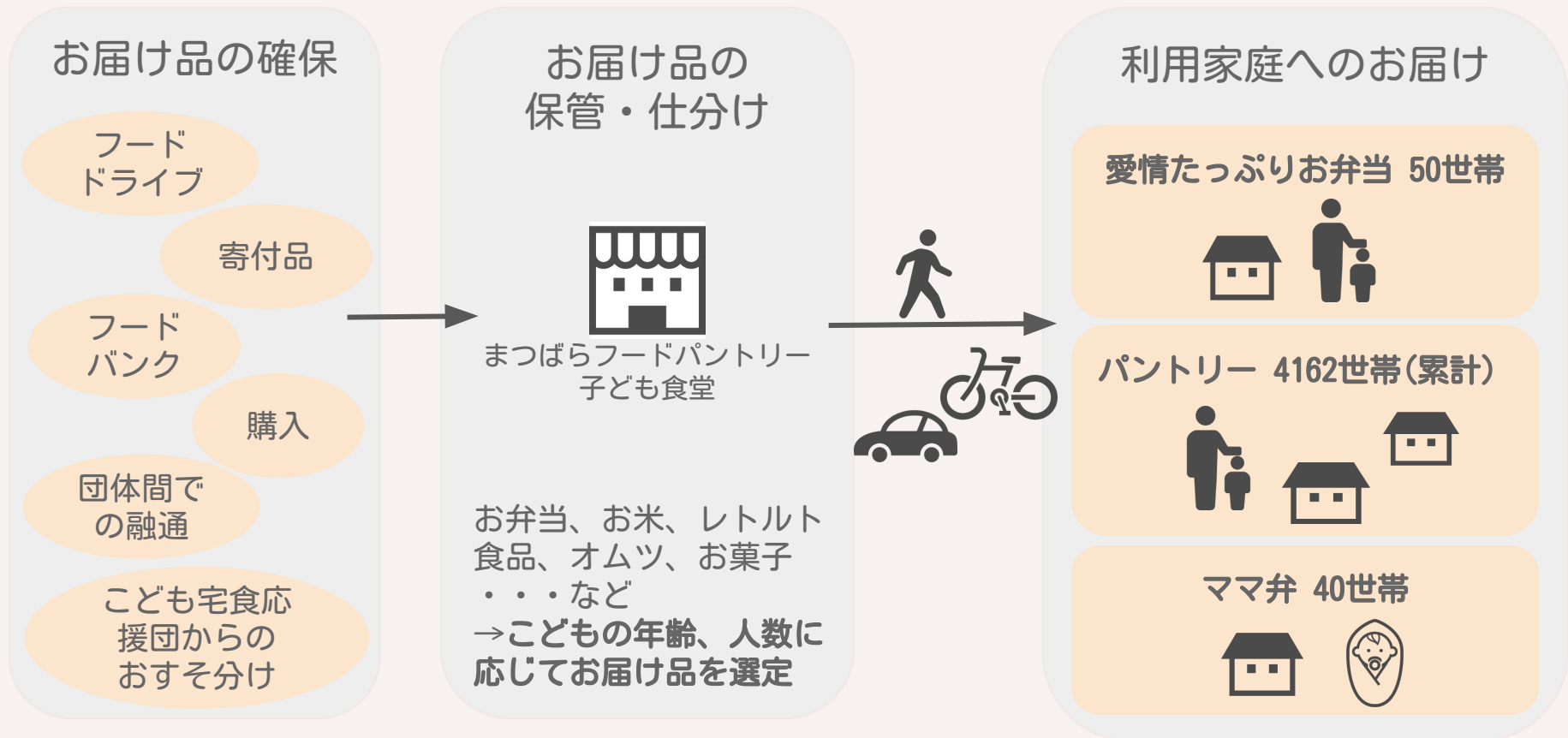
Point

簡単申し込み！でもきちんと情報は把握

◎LINEからの申し込み時に家庭状況についてアンケート

◎配送時の的確な状況把握

家庭に「届ける」



家庭と「関係性を築く」

少しずつ、丁寧に・・・

ボランティア

◎ボランティアと
スタッフの役割分担

◎「ありのまま」の家庭
の様子を報告

◎各種研修を受講

傾聴

◎根掘り葉掘り聞か
ずに、相手の言葉を待つ

◎自分の考えを押し付
けない

◎小さなことでも褒め
る

関わる姿勢

◎見立てを持ちながら
も、自分の感覚で判断
しない

◎子どもだけでなく、
親も大切にする

家庭を「つなげる」

行政



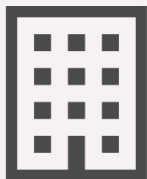
- ・子育て支援課
- ・地域保健課
- ・障害福祉課・・・

こども宅食で
つながった家庭



様々な支援機関につなぎ
連携しながら支援していく

社会福祉協議会



学校・保育園・幼稚園
(スクールソーシャルワーカー)



病院



学習支援



児童家庭支援センター




こども宅食を通じた支援事例

事例

シングルマザー（30代）・こども（7歳）の親子
幼稚園から「卒園後のフォローをお願いしたい」との要請により支援開始。
家庭は困窮状態。母親は仕事をしておらず精神的に不安定な状況にあった。
こどもは小学校入学後に不登校になり、親子とも家から出られず、社会から孤立していた。

 こども宅食を通じた継続的な見守りを続け、関係性を構築

 家庭に訪問したからこそ見えた本当の課題

こども宅食を実践する中で見えてきたこと

こども宅食を利用する家庭は・・・

出せない
SOS

出さない
SOS

SOSが
わからない

支援者側からアウトリーチしていく必要がある家庭の存在

こども宅食を実践して思うこと

家に訪問するからこそ、見えてくることがある

食支援は1つのツール
それをきっかけとした「つながり」こそが重要

支援を「卒業」するとは

決して傍観者であってはいけない

寄り添い、心の声に耳を傾け、真剣に、向き合う覚悟を決める